

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

真庭家畜診療所蒜山支所 藤井 蘭

平成 21 年 4 月から NOSAI 岡山で獣医師として働き始めた藤井です。10 月に研修を終え真庭家畜診療所蒜山支所に赴任し、日々悪戦苦闘しています。

蒜山地域の特徴は、なんと言ってもジャージー牛がたくさんいることです！もちろんホルスタイン牛や黒毛和牛も、たくさん飼養されており、3 種類の牛を診ることができ牛の獣医になりたかった私にとって、なんともお得な診療所です。今までは、主にホルスタイン牛しか接することが無かった私にとって、同じ牛でもこんなに違うんだと日々発見の連続です。

一番の違いを感じたのは直腸検査です。まず大きさがまったく違い、背が高くない私にジャージー牛はちょうどいいサイズ。しかも、内臓脂肪は少なく卵胞・黄体の違いもはっきり診断でき、子宮壁が薄く妊娠鑑定もわかりやすいことです。黄体期でも、子宮の収縮がかなりあるのには戸惑いましたが、まるで自分の直検が上達したような錯覚を覚えました(多少は上達していると思いたいですが・・・)。逆に太り気味の黒毛和牛は、脂肪も多く分かりにくいです。一日で三種類の牛を直検する日など、最後のほうはなにがなんだか分からなくなっていました。

なりやすい病気や、牛の体調による表情の変化も違います。ジャージー牛はとにかく乳熱や低カルシウム血症が多い！体温が 36℃台まで下がり冷たく丸まっている、「これは治るのか?!」と心配になる時でも、カルシウム剤 1 本で見事に復活するのは驚きました。逆にホルスタイン牛なら少しずつ良くなっていきそうなのに、あっけなく死んでしまい、がっかりしたこともあります。顔つきも、もと

もと目が出っ張っているジャージー牛は脱水の判断が難しいと思いました。また、ジャージー牛はとても活発で好奇心旺盛な性格で、搾乳牛でもホルスタイン育成牛のようにいつもテンションが高めです。そんなジャージー牛ばかり見ていると、ホルスタイン搾乳牛を見たとき「なんか元気がないな」と思うってしまうことも。頭の切り替えが必要だと思いました。

牛の違いを考えつつ酪農家さんたちの力になれるように精進していこうと思います。

また蒜山はとても寒く雪が多い所です(今年は雪が少ないらしいですが)。寒波が来ると夜はぐっと冷え込み、連日加療し、やっと快方に向かい始めた子牛があっけなく死んでしまうことが(凍死?)何度もありました。カーフジャケットや投光器による保温はもちろん、下痢や風邪などを軽いうちに知らせてもらうことが必要だと痛感しています。連続水槽が凍り、診療車に積んだ薬が凍り、凍っていない注射器で吸った瞬間過冷却でバキバキ凍った時は「こって晴れの国岡山?」と半泣きになりました。

今は寒く雪道の運転は危ない(特に私は)季節ですが、この原稿が出る頃はもう春だと思います。ぜひ皆様蒜山に来て、美味しいジャージー牛乳&牛肉をご賞味ください☆

